Lilium tigrinum（Lil-t.） ケントのマテリアメディカ

プルービングされた限りでは、Lilium tigrinumは女性の訴えに適応していることが示されている。特にヒステリー、子宮のトラブル、心臓のトラブル、様々な神経症状で苦しむ女性に適している。非常に過敏で、空想に満ち、狂気、宗教的憂鬱、想像力、心臓の影響、脱腸のある女性に適している。これらの症状はしばしば交互に現れ、精神的な症状が最も顕著なときには身体的な症状は緩和される。脱腸に伴う "引きずり込み "は、胃の辺りから、時には喉からも引きずり込まれるようである。内臓のすべてが引きずり下ろされるような圧迫感。このような極度の弛緩状態になると、非常にそわそわし、特に動悸が激しくなる。仰向けにしか寝られず、左右どちらにも寝ると悪化する。あらゆる感情から心臓は動揺し、不規則で興奮しやすい。これらの精神症状、心臓症状、子宮症状はしばしば交替し、主要な特徴となっている。

誰に対しても、まともな言葉を発することができない。親切に話しかけられてもキレる。あまりに過敏で、友人もなだめることができない。慰めさえも悪化させる。話しかけられるといらいらする。夜も眠れず、狂信的な宗教的観念か宗教的憂鬱に苛まれ、宗教と生活様式に関する非常識な考え方に傾き、不合理で非論理的で空想的なようである。すべてにおいて間違った考えをもっている。間違った印象を受け、すべてが逆転している。彼女を喜ばせることは不可能である。このような状態は、性器の過敏性、ニンフォマニア、痙攣を伴う激しい性的興奮、動悸、発汗、疲労困憊の期間と共にある。一人で座り込み、想像上の問題に思い悩み、話しかけられるとガミガミ言う。"考えがはっきりしないが、意志を働かせればもっとはっきりする" "書くのも話すのも誤り、精神を安定させることができない。" "自分の救済について苦悩している。"

患者は、何とも言えない感覚を表現しようとして、「頭の中で、考えが散乱しているような狂った感じがあって、合理的に考えようとすればするほど、より非合理的になる」と述べています。何かを考えようとすればするほど、それを思い出す可能性は低くなる。他のことに心を向けると、またそれが戻ってくる。このレメディーは、過労で神経質な女性の性的過剰から、性的興奮から、動悸を伴う心の混乱を引き起こし、あらゆる種類の症状がある。

本文にこうある。"無気力、不活発、しかしじっと座っていることを望まない" この患者はじっと座ってうだうだ過去のことを考え、話しかけられると飛び上がり、急いで興奮し、何の理由もなくドアを叩き、家族や友人に優しく話しかけられると、暴れるようである。このレメディで悪化した患者が私に言ったことがある。"今日、街宣車の中で話しかけられたんだけど、頭にきて、その人の頭に何か投げつけたいくらいだった"。彼女は自分について何か考えていて、邪魔されるのを嫌ったのだ。気性の激しい状態、苛立ちの激しい状態、バランスを崩した状態である。彼女は言う、"話しかけられたり、邪魔されたりすると、飛んでいかなければならないような気がする"。友人と接触するとき、彼女はこのような感情を抱く。その接触は、彼女を無気力と静寂の状態から覚醒させるようである。このレメディでは、奇妙なことが起こる。文章に書かれている感覚は、とても曖昧で変化に富んでいて、自分が感じたことを表現しようとする実験者の努力の跡が見て取れます。その感覚は数多く、筆舌に尽くしがたい。

この患者は非常に一般的に温血病患者である。温血病で涼しい部屋を好み、野外を歩くのが好きだが、歩くことで脱出が悪化する場合もある。頭部は一般に戸外で動くと緩和され，戸外を歩くとよりよい。頭痛をはじめ多くの症状は、寒さや涼しい部屋では緩和され、暖かい部屋では悪化する。呼吸困難は暖かい部屋で起こる。人混み、劇場、教会で窒息感がある、Apis, Iodine, Kali i., Lyc. のように。

後頭部から頭頂部にかけて、狂おしいほどの感覚が湧き上がってくる。それは、感じた人だけが表現できるものだ。チクチクする、電気が走るような感覚と表現されることもある。後頭部から頭頂部にかけてピリピリとした痛みがあり、めまいと関連する。しかし、そのようなことは何も思い浮かばない。臨床的にそういうものを得て、考えないと思い当たらないことが非常に多い。額の痛みは非常に顕著で，大きな視力障害，視力の低下，部屋が暗く見える，あるいは目の焦点が合わないなどの症状を伴います。神経性の視力障害、羞明、瞼の痙攣、眼球の周りのピクピク感、目の粘膜、瞼や玉の炎症、結膜炎など。また、頭の痛みで眼球が内側に向き、斜視になったり、額の痛みで失神の恐れがあることもよくある。これらのことから、Lilium tig.の患者がいかに過敏で、非常に神経質で、ヒステリックな人物であるかがわかるだろう。これらのことは、極度に神経質な患者、心臓の鼓動がある患者、背骨の下の方に痛みがある患者、多かれ少なかれ脱力感があり、引きずり込まれるような感じがある患者によく見られるものである。一方の症状があるときは、他方の症状がないのが普通であり、これらは交互に現れるか、あるいは同時に現れることもある。

「右腸骨の痛みを伴う、気が狂いそうな頭の中の荒々しい感覚」。これらの実験者は、"気が狂いそうなほど頭に感じる "という表現が好きなようです。そのクレイジーな感覚とは、心が全く集中できないような心の混乱である。それが、患者さんが抱くこのクレイジーな感覚によって解釈されます。それは時にめまいのようでもあり、物事がぐるぐる回っているようでもあり、気が狂いそうでもある。そしてまた、ひどい、引き裂かれるような頭痛としてやってきて、額に狂ったような頭痛と表現される。頭が混乱するような、あるいは頭がおかしくなるような頭痛。

腹部、大便、泌尿器、性器はこの薬の使用部位である。腹部臓腑全体が胃から引きずり下ろされるような感じである。患者は腹部を支えようとし、腹部が下垂している。骨盤内臓器が突出するような感じである。横になって、T字型包帯を巻きたい。腹部を横から掴み、持ち上げて支えたい。まるですべてが膣から入ってくるような骨盤の脱力感や耐圧感である。

このレメディは、非常に急な下痢で、朝ベッドから追い出される；大急ぎでやらなければならない。硫黄と混同されるかもしれないが、Lilium tig.は頭に大きな熱を持ち、胃に虚しさがあり、手のひらと足の裏に大きな灼熱感がある。また、テネスムス、粘液、血液が著しいので、Merc-c.とほとんど区別がつかないような赤痢を起こす。便は血の混じった粘液で、テネスムスはMerc-c.と同様に大きく、肛門の火照りは顕著である。この薬は、私が説明したような神経質な患者の慢性的な症状として時々起こる赤痢の発作に、特に適している。この患者が神経質だからといって、弱いとか、小柄だとか、痩せていると思わないでほしい。この薬は、特に静脈の充実した人、明らかに豊満な、血色のよい、肉付きのよい、丸々とした女性で、非常に神経質で、特に人生の変わり目に適しているのだ。骨盤・腹部の弛緩、精神的過敏、心悸亢進、神経質な体質の人は、風邪のたびに赤痢発作を繰り返す。このような絵にMerc-c.は出てきませんね。もし赤痢だけだったら、どちらかわからないだろう。このような赤痢性の症状はすべて「指導症状」から省かれているが、私は何度も検証してきた。また、最も厄介な便秘がある。

また、膀胱や直腸のテネスムスもある。尿意を催し、また便意を催す。長時間座っていると便意が強くなり、長時間我慢しても便が出ない。直腸に玉が入ったような感覚を伴い、頻回に排尿を催す。子宮底を直腸に戻すと、直腸に便が充満しているような感覚を覚える。便意を催し、患者は座って力むが、膀胱と直腸のテネスムスは耐え難いほどである。常に便意を催し、直腸には便がない。このような症状で示されるレメディが、短期間で患者をすべての苦痛から解放することを知れば、あなたは驚くことだろう。しかし、このレメディーは子宮を再び正しい状態に戻してくれるのでしょうか？さて、患者は苦しみから解放され、レメディーを投与した後はこの不快な状態を感じなくなります。腸は規則正しくなり、排尿障害は緩和され、患者は次第に健康に戻り、後に子宮は定位置にあることがわかるだろう。

"直腸に圧力があり、ほとんど常に便意を催す" Lilium tigrinumは、灼熱感を伴う最も頑固な突出痔核を治癒させた。"出産後の痔は触ると痛く、便の後は全てが膣からはみ出るかのように耐え忍ぶ。" 単に分娩後に来る痔に当てはめるということではなく、このような体質の痔を治し、痔だけでなく、子宮や膣の弛緩も治しているのである。

腹部の全組織に麻痺性の弛緩が見られる。子宮の症状については、他の部位との関連で、ついでに触れておいた。"月経は乏しく、動き回るときだけ流れる" これは、月経があまりに少なく、またパルスの患者が同様の神経質な気質であることから、パルスのことを思い起こさせるだろう。パルスは月経が少なく、戸外に出ると楽になる。また、この薬ほど極端ではないが、骨盤の引きつれが多い。しかし、この薬にはPuls.と全く異なる点が多くある。

次に心臓の症状である。「心臓を万力で押さえつけられたような、激しく握りつぶされたような感じ。"心臓が締め付けられるような痛み" "新鮮な空気では肌寒いが めまいは改善される"

背中から背骨にかけての痛み、震えを伴う過敏な背骨。プラチナと非常によく競合する。

（Deepl翻訳）